

製品名: リン酸化 TIFA (Thr9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87618**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:21 kDa; Observed MW:21 kDa

抗原情報

遺伝子名	Phospho-TIFA
別名	T2BP; T6BP; TIFAA
遺伝子 ID	92610
SwissProt ID	Q96CG3
免疫原	ヒト TIFA の Thr9 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

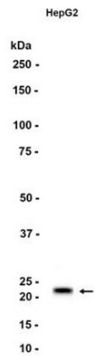
この遺伝子は、適応免疫および自然免疫に関与するアダプタータンパク質をコードしています。このタンパク質は、リン酸化セリン

およびスレオニン残基に特異的に結合するフォークヘッド関連 (FHA) ドメインを含んでいます。細菌感染に应答して、コードされている宿主細胞タンパク質は、FHA ドメインとリン酸化スレオニンとの間で分子間相互作用を起こし、タンパク質オリゴマー化、NF- κ B および他の下流シグナル伝達経路の刺激を引き起こします。このタンパク質は肝細胞癌において発現が低下しており、肝細胞癌の進行を抑制する可能性があります。また、DNA 損傷応答においても役割を果たす可能性があります。[RefSeq 提供、2018 年 6 月]

研究分野

-

画像データ



1:1000 のリン酸化 TIFA (Thr9) ウサギモノクローナル抗体を使用した HepG2 細胞抽出物のウエスタン プロット分析。